

奥日光の昆虫の生態について

1. 研究の目的

自分たちの身の周りにはいる昆虫と奥日光にいたる昆虫の生息環境や生態の違いを明らかにする。

2. 調査方法

- ・栃木県立博物館の事前調査では、奥日光の環境や生息する昆虫について調べた。
- ・奥日光での調査では、網を使い湯の湖周辺の昆虫を調べた。
- ・事後調査では、日光と小山の気候の違いによって生息する昆虫の特徴について調べた。

3. 調査結果

アキアカネは季節的な長距離移動が知られている。

これはアキアカネが暑い場所よりも涼しい場所を好むためや食べ物が多いためと言われている。



図1 アキアカネ

ザトウムシは湯川周辺の木々の根本で観察。非常に小さい体に非常に長い足が8本ついているのが特徴である。

クモと間違われることがあるがザトウムシは体に対する足の長さ、頭と腹の区別がないといった相違点が見られる。



図2 ザトウムシ

温泉アブの幼虫が湯元の源泉で水中に見られた。

2,3匹見られ、水は温かい温水だった。

温泉アブの幼虫は、草も生えず水生昆虫が生きられない環境でも生息できるととても珍しい生き物であることが分かった。



図3 温泉アブの幼虫

バナナトラップ

私たちは、今回バナナトラップに挑戦してみた。バナナトラップとはバナナ 1 本に焼酎を加え、日なたに半日～1 日置き発酵させたものをペットボトルに入れて設置したものだ。

日光にバナナトラップを仕掛けたが、残念ながら何も取ることができなかった。その理由としては設置した場所がホテルの近くだったため、生息地から離れすぎていたことが原因の 1 つと考えられる。



図 4 バナナトラップ

4. 考察

今回の現地調査で去年より昆虫が少なかったのは当初前日の大雨が原因と考えた。そこで調べたところ、雨が止んだのち 4～5 時間経つと樹液を求めて昆虫の移動が盛んになるようである。しかし夜中まで大雨だったとはいえ、正午近くなっても昆虫が少なかったので、他にも原因があると考えた。

5. 今後の課題

今回の研究では、昆虫があまり多く見ることはできなかった。その原因が前日の大雨ではなく、気温が低かったためと考察できる。そこで来年度の課題としてフィールドワークの時に継続して気温をはかることを提案する。

6. 参考文献一覧

- ・『アキアカネについて』

<https://ja.wikipedia.org/w/index.php?title=%E3%82%A2%E3%82%AD%E3%82%A2%E3%82%AB%E3%83%8D&oldid=92470122>
[2022/9/21]

- ・『クモのイラスト』 <https://illustimaga.com> [2022/9/23]
- ・『天気を味方に昆虫採集』 <https://www.nhk.or.jp/maebashi-ana-blog/2200/400034.html> [22022/10/13]
- ・『アキアカネ』 <https://konchu-zukan.info/akiakane.php> [2022/10/13]

謝辞

栃木県博物館の山崎晃先生、ご指導ありがとうございました。